

No	質問内容	ご回答	備考
1	セキュリティ面で気を付けていること等があればお伺いしたいです。	<p>【GovTech東京（神喰様）】</p> <p>東京都が作成している文章生成AI活用ガイドライン・活用事例集や生成AIプラットフォームの利用ガイドライン等を中心にルールを策定し、利用者に対して遵守いただくようお願いしております。</p> <p>【板橋区（森様）】</p> <p>運用面では生成AIを利用するにあたりガイドラインを作成し、個人情報等の入力は禁止にしています。環境では当然ながらプロンプトが学習されないようにすることに加え、入力したデータが国外に保存されないことに注意しています。</p>	<p>文章生成AI活用ガイドライン・活用事例集</p> <p><a href="https://www.digitalservice.metro.tkyo.lg.jp/business/ai/ai-guideline">https://www.digitalservice.metro.tkyo.lg.jp/business/ai/ai-guideline</a></p>
2	SIROOBIの方は所属内で何名か選出するのでしょうか。それとも任意参加を想定しているのでしょうか。	所属内で何名か選出することを想定しています。	
3	板橋区様のDifyは「デジタルサービス局/GovTech東京が提供している生成AIプラットフォーム」ですか？ 「生成AIプラットフォーム」であればログインが必須と思いますが、全職員が使えていますか？	ご認識のとおり、Difyは生成AIプラットフォームのことです。 アカウント作成管理の運用が定まっていないため、全職員は使えていません。	
4	板橋区様にご質問です。作成したアプリはIT推進課で保守し続ける想定でしょうか？	現在は効果検証の位置づけにあたります。効果が確認でき、かつ精度の向上のためのナレッジも溜まってきているため、今後は各部署で保守ができることも含め人材育成を行っていきます。	
5	出来上がったアプリの評価はどのように行っていますか？例えば、ホームページ改善であれば、アクセス数の増加、管理職ロープレであればどの程度工数を削減できたでしょうか？	具体的なアプリによる定量的な効果測定は実施できていません。ホームページ改善については、作業時間が測定できそうな指標かなと考えています。管理職ロープレについては、管理職への周知を目的とした取組になります。	
6	板橋区様のLoGoフォームのアプリは、区民を対象にしたものでしょうか？ ログインの有無や一般公開の有無の可否が知りたいです。	LoGoフォームのアプリは、区民ではなく区職員からIT推進課への問合せを対象にしたものです。フォームの作成管理を行うためのアカウントの払い出しなどの運用ルールから、フォーム作成方法や理想のフォームを作り上げるための操作まで回答するアプリになります。	
7	本日、アプリのデモ提供は難しかったのだと思うのですが、どのようなUI/UX、またデータ蓄積の仕組みになっているか、ぜひ触ってみたいと思いました。GTTのDify協働活用に参画させていただくと、自治体間で既存のアプリを共有可能であると伺ったように記憶しておりますが、板橋区様のご案内いただいた各種アプリについては他自治体への共有はご予定されているのでしょうか？	<p>【GovTech東京（神喰様）】</p> <p>板橋区さんの御意向も踏まえつつですが、GovTech東京としては自治体間でのアプリ共有ができるようルール策定を進めております。</p> <p>【板橋区（森様）】</p> <p>予定はしておりませんが、ご要望があればアプリのDSLファイルを何かしらの形で共有することは可能です。</p>	
8	生成AIに仕事が奪われる、という層が一定数います。導入にあたって、そういった方々をどのように説得していくべきか、お知恵を頂ければと思います。	<p>日本の状況を踏まえると、雇用法制上、解雇に厳しく、人手不足といった前提がありますので、AIに仕事を奪われることよりも一人当たりの業務がどんどん大変になっている状況です。</p> <p>AIを使いこなし、担い手が減っていく中でも仕事を続けていくための一つの手段として、AIを考えてみるとよいのではないかと思います。</p>	

No	質問内容	ご回答	備考
9	壁打ちについて、こういった形で実施するのがよいでしょうか。なかなかうまくいかず。。。コツを教えてください。	<p>【GovTech東京（細谷様）】</p> <p>即効性のある3つのテクニックとしては、①AIに役割を与える、②あなたに対して質問しても良いと許可を与える、③思考のプロセスを分けると良いかと存じます。</p> <p>&lt;イメージ&gt;</p> <p>私は今、[〇〇という課題/テーマ]について考えていますが、考えがまとまっていません。壁打ち相手になってもらい、私の思考を整理する手伝いをしてください。</p> <p>まずは私の現状のメモを共有します。</p> <p>これに対して、多角的な視点から私に「質問」を投げかけてください。</p> <p>私がそれに回答することで、アイデアをブラッシュアップしたいです。</p> <p>【現状のメモ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（ここに箇条書きで思いついたことを書く）</li> </ul> <p>また、事例集も参考になりますのでご参照いただければと存じます。</p> <p>【板橋区（森様）】</p> <p>回答のどこが不満なのかを考えると良いかもしれないです。業務固有の情報などは思ったような回答をしてくれないので、何の情報があれば満足する回答を得られるかを考えて、その情報を含んだプロンプトを打つ、あるいはRAGアプリを作ってみるのが良いかと思います。</p>	<p>事例集</p> <p><a href="https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/digitalservice/ai_prompt">https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/digitalservice/ai_prompt</a></p>
10	ナレッジベースの鮮度と精度、プロンプト設計で使えるか使えないかが決まると思いますが、ナレッジベースの定期更新等で気を付けることはありますか？	<p>【GovTech東京（神喰様）】</p> <p>更新後に回答精度が上がる場合もありますが、下がる場合もありますので、更新前の状態を確認できるようにバックアップを取ってから更新すると安心です。</p> <p>【板橋区（森様）】</p> <p>例えば、マニュアルを基にしたQAアプリの場合は、ナレッジベースを作成する際にマニュアルを項目ごとなど分割し、分割した複数ファイルをデータソースとして取り込むと、マニュアルが改定された際には改訂された項目のファイルだけ更新すれば良くなるので、他への影響が少なく良いと思います。</p>	
11	本番稼働後の改修は、テスト環境を別に持ってやっていますか？	<p>【GovTech東京（神喰様）】</p> <p>生成AIプラットフォームについてテスト環境は設けておりませんが、アプリのコピーが可能のため、本番アプリと開発アプリを分けて開発されているという事例を聞いております。</p> <p>【板橋区（森様）】</p> <p>まだ本番環境後の改修を実施したケースがありませんが、検証用にアプリを複製してテストすることが想定されます。</p>	

No	質問内容	ご回答	備考
12	開発ナレッジの蓄積が不足とのコメントがありました。ナレッジは蓄積できましたか？情報は公開される予定はありますか？（既に公開されていたら、URLを教えてください。）	<p>【GovTech東京（神喰様）】</p> <p>GovTech東京として公表しているものは現状ありませんが、公表できるよう準備していきたいと考えております。</p> <p>OSS版前提ですが、Difyの開発ナレッジはWEBで多数公表されておりますので、参考にいただければと思います。</p> <p>【板橋区（森様）】</p> <p>生成AIの伴走サポートで共有させていただくことはしていますが、外部に公開することは予定していません。今後、職員向けの研修資料などは作成していく予定はありますので、そちらを機会があれば何かしらの形で共有できればと思います。</p>	
13	生成AIプラットフォームについての図について、もう少し詳しく教えて頂きたいです。どういったところが優位なのでしょう。	生成AIプラットフォームのメリットについてはこちらのURLをご確認いただければと存じます。	<a href="https://www.govtechtokyo.or.jp/news/2024/12/13/3298/">https://www.govtechtokyo.or.jp/news/2024/12/13/3298/</a>
14	AIにも業務にも、となると、時間が足りなくなりそうです。効率的な人材育成にあたり、どういったことが考えられるでしょうか。	<p>AIと業務を別のものとして考えるのではなく、今やっている業務をどう楽にしていけるかという観点で、業務をやりながらAIを少し触っていけるとよいと思います。</p> <p>例えば、Excelでマクロを書いたり、VBAを書いたりと計算処理を効率化するシーンと似ています。</p> <p>ある職員が、上司の方から指示を受けて政策立案をしなければならないといったときに、自分でゼロから考えるのではなく、一度たたき台をAIに出させ、そのたたき台をベースに物事を考えてみる、というワンステップAIをかますことができれば、時間もコンパクトにしながらAIの知見もたまっていき、どんどんAIがないと業務が考えられなくなるように変わっていくと思いますので、まずは触ってみるといったところから始めてみるとよいと思います。</p>	
15	当局では、Difyで作成したアプリは局内で共有されてしまいます。ナレッジとして担当内限りの情報も読み込ませ、アプリを担当内のみで使いたいのですが、方法がありますでしょうか。	現状、各局単位にワークスペースを配布しているため、担当内のみで使っていただくということが仕様上できません。ただ、より細かい単位でアプリを作りたいという要望もいただいているので、実現できる方法はないか検討しているところになります。	
16	森様にお伺いします。テスト検証の方法についても内製だったのでしょうか。その際、どのようにして方法を決められたのでしょうか。	令和6年10月にRAGの検証を事業者と一緒にやり、そこでの知見や、デジタル庁が公開しているRAGの検証レポートにあるテストの方法を参考に決めました。	
17	板橋区様への質問です。都庁ではDifyの浸透が今一つようです。現在、都庁各局に対して議会答弁アプリをリリースしていますが、残念ながらほぼ使われていません。板橋区様においては、Difyの浸透を広める、深めるための特徴的な取組がなされています。ご紹介いただけませんか。	基本的によろず相談やイベントで受けた業務の課題をベースにアプリを作成しています。今困っていることをベースにアプリを作成しているので、そういったアプリであれば、自然と使ってもらえるようになって考えています。	
18	Logoby（LoGoフォームの運用に関する問合せ）は、入力フォームへの案内だけで、即答するものはありますか？即答であれば、RAGは何件登録しましたか？その内容や分類などが知りたいです。	ドキュメントデータは運用に関するマニュアルを一個登録しています。その上で、即座に回答できるように、AIに回答を考えさせるというよりは、定型的な質問、定型的な回答が予め決まっているものがあるため、そういう質問に対しては、チャットフローでテキストを埋め込むことができるので、回答を埋め込んで即答できるような仕組みをとっています。	

No	質問内容	ご回答	備考
19	管理職向けロープレについて、どのようなことを想定したものになっているのでしょうか。	管理職になられる方向けの部下のやる気をそがないようなマネジメントをするためにはどうすればよいかといった研修の中で生まれたアプリになります。 3つのシチュエーションを用意し、選択したシチュエーションに応じた部下役の相手としてAIがやり取りをしてくれます。	
20	GovTech東京さんと、板橋区さんにお尋ねします。 Difyに投入する文章やDifyからの回答に機密性の高い情報が含まれると、ログを介して、気密性の高い情報が他者の目に触れる可能性があります。このため、Difyには機密性の高い情報を取扱うことが難しいのではないかと考えております。このことについてのご見解と、対策などをご教示いただきたいです。	【GovTech東京（細谷様）】 機密性の取扱いについては、各行政機関のセキュリティポリシーがありますので、それに沿った形で使っていくことが一つです。その上で、外部サービス、クラウドサービスを利用するようなケースというのは定められた手順がありますので、そういった組織のルールを把握しておくことが大事だと思います。 生成AIの活用については、ChatGPT等の生成AIの業務利用に関する申合せにおいて、リスク評価を行った上で一部機密性2情報まで取扱う事を許容するなど、国の取扱いも段階的に柔軟になってきている状況もありますので、きちんとガバナンスをきかせていけば、機密性があるデータも利用可能といった世界線もあると思います。個人情報など大事な情報は守りながら、社会の動向に応じて適切に対応し続けていくために情報をキャッチアップしていくことが大事であると思います。  【板橋区（森様）】 板橋区では機密性の高い情報は取り扱わないようにという仕切りの上で、利用していません。今作っているアプリは基本的にQAアプリとなっているため、機密性の高い情報を含まなくても十分なものとなっています。	
21	開発したアプリの管理方法をどのように考えているのか、教えていただきたいです。人が変われば、うまく引き継がないアプリ、システム開発の事例は山ほど見えました。組織としてどのように管理していくのか、考え方を知りたいです。	RPAや行政関係ですと、昔作ったマクロなどの管理が課題になってくると思います。どのように管理していくかといったところは、各組織の規模や状況によるところもありますが、きちんと変更管理をしていくことが大事かと思っています。その上で、Difyの良いところは作った時点のバージョンをDSLファイルにエクスポートする仕組みがあるところです。ある作った時点のものを、ずっとそのまま使っていて、変更をしたときに、またファイルをエクスポートしておくといった比較的手間のかからない習慣をルールとして定めておくと、そのファイルの中身がどう変わったのかといったところをAIを使いながら確認していけば、後から追っていくということが比較的しやすい作りになっています。 管理の方法としては、最初に設計をして、負荷をきちんと維持可能な形にしていくのかといったところを検討しておくことがよいと思います。	
22	板橋区の森様に質問です。 職員の安全にAIを利用するためのリテラシー教育や研修、ナレッジ共有等は実施されていますか？	生成AIガイドラインを作り、それを基にした研修は行いました。今後は、KUROOBIの制度に基づいて人材育成を行っていくので、リテラシーなどの研修を行っていければと考えています。	
23	業務システムなどでは、運用を開始する前にはテストを行います。生成AIアプリにおいても、品質を確認するために、リリース前にテストを行うと思います。どのようなテストを行っていますでしょうか。業務システムで行われるようなテスト（境界値テスト、異常系のテスト、想定されるパターンを網羅したテストなど）を行うのでしょうか。	作るアプリにもよるとは思いますが、QAアプリは問合せ対応に対するアプリとなるため、よくある問合せをベースにテストのプロンプトを作成し、それに対してどういう回答をすれば正解かといった点をテストしています。そこまで厳密なテストを行っていないというのが現状です。	

No	質問内容	ご回答	備考
24	都庁ではMicrosoft 365 Copilotが使用できます。Difyの活用事例で取り上げられたQAアプリが欲しい場合、わざわざDifyでアプリを作らなくても、SharePointにナレッジのファイルをアップロードするだけで、CopilotによるQAが簡便に実現できてしまいます。都庁職員が、わざわざDifyでアプリを作る必要があるのは、どのような場合でしょうか？	個人に張り付いているような業務（メールなど）の普段使いの部分はCopilotが非常に使い勝手が良いと思います。一方、組織で行う業務（例えば、係単位で大規模なアンケートを収集するなど）のように単発で業務が終わらず色々な工程が連なって業務を行うケースでは、単発のやり取り以上に業務を組み立ててアプリを作っていくので業務効率化につながっていくと思います。 業務の性質として、自分の仕事が単発で終わるのであればCopilotを使い、例えば組織として対応する発注であったり契約をしたりという多段階的な業務についてはDifyでワークフローを作っていく、といった点を、AIを触っていくときの使い分けの区切りの一つとして考えてみると、どちらを使えばよいのか思考の補助になってくると思います。	
25	来年度GTT共同調達でDifyの検証を行う予定です。現在Microsoft365を使用しておりますが、RAGの参照領域にSharePointを設定することは可能でしょうか。また機密性の高い情報をDifyで取り扱うことを想定した場合どのような工夫が必要だと考えますか。	現状、RAGの参照にSharePointを設定することはできない仕様になっています。 機密性の高い情報をDifyで扱う時の工夫については、セキュリティポリシーや生成AIに関するポリシーを整えるところから始めていただき、現場の皆様にも実際使ってもらう際に、ポリシーを踏まえて生成AIを利用するよう啓蒙する活動から始めていただけると安全かと思えます。	
26	板橋区様へお伺いします。構想～開発～PoC～ローンチまで、どのくらいの期間（スピード感）でできているのでしょうか？また、リリースしてよいかの判断（承認）はどのようにされているのでしょうか？	1つのアプリに対して約1ヶ月くらいで作成しています。まずはプロトタイプを作り、プロトタイプを試してもらい、フィードバックをもらって改善してといった作業を2～3回繰り返しているような流れになります。 リリースの判断（承認）は、お困りの所管がOKであればオープンしています。	
27	板橋区様にお尋ねします。開発メンバーが5名（かつ、よろず相談担当とは分けて）ということだったかと思いますが、メンバー数からもかなり力を入れられているなという印象を受けました。もちろん各メンバー他業務を持ちながら進められているのかと思いますが、平均的には、どの程度開発にコミットできているのでしょうか？	まだそんなに多くのアプリを作れている状況ではないため、各メンバー2アプリ程度作っている状況です。毎週1～2時間程度を押さえています。これくらいの時間で簡単に作れてしまうのがDifyの良さと感じております。	